

宮城 社会 3.11大震災

大川小と閑上中 遺族ら命の尊さ教訓伝える

東日本大震災で失われた命の尊さを考え、教訓を未来につなぐ「いのちを語りつぐ会」が29日、宮城県名取市文化会館であり、児童生徒が犠牲になった同市閑上中と宮城県石巻市大川小の遺族らが震災当時の状況や現在の心境を語った。

震災で閑上中生徒は14人、大川小児童は74人が犠牲になった。次男＝当時（14）＝を亡くした閑上中遺族会の大川ゆかりさん（47）は、悲嘆に暮れた4年8カ月の日々を振り返った。「生きたくても生きられなかった子どもたちがいる。私にできるのは、息子に教えられた命の大切さを伝えていくこと」と話した。

大川小で次女＝当時（12）＝を亡くした佐藤敏郎さん（52）は、同校で妹を亡くした高校1年只野哲也君（16）、高校3年紫桃朋佳さん（17）と一緒に登壇。「亡くなった子どもたちの命に意味を持たせたい。未来への意味付けができれば、震災ともしっかり向き合っていけるのではないかと述べた。

名取市閑上地区で震災の記憶を伝える活動に取り組む認定NPO法人「地球のステージ」などが主催、復興支援に取り組むNPO関係者や一般市民ら約300人が参加した。



震災で亡くなった児童生徒の遺族が命の尊さと教訓を語った

[拡大写真](#)

2015年11月30日 月曜日